

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	NADIATUS SALAMA
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) An Exploration of the Meaning of Corporate Bribery among Businesspeople in Indonesia: A Phenomenological Study (インドネシアの企業人における企業贈収賄の意味の探究：現象学的研究)			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査 (Committee chair)	教授 築達 延征		印
審査委員 (Committee member)	教授 小柏 葉子		印
審査委員 (Committee member)	教授 大内田 康德		印
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
1. 概要 本論文では、世界的にも問題視されているインドネシアの企業贈収賄に焦点を当て、現象学的アプローチを用い、贈収賄行為者達の習性となった考え方・実体験を明確にした。企業贈収賄は、マネジメント研究の領域においては「企業倫理」、さらに、「組織の腐敗」に細分化されるテーマである。現象学を土台にした調査法を用いることにより、実際に企業贈収賄を経験したインドネシア人たちの思考パターンを明確にすることが可能になった。さらに、イスラム教がどのように企業贈収賄行為を「合理化」する思考パターンに影響するかも探究し、明確にした。			
2. 論文の構成 本論文は、英語論文の作成法にしたがい、6章ならびに参考文献・付記から構成される。以下、各章の概要を示す。 第1章では、背景説明、問題の所在、研究の目的、研究の意義、本論文の構成を述べている。 第2章では、企業贈収賄、合理化に関する理論、組織行動論、企業倫理等の領域で先行研究をレビューしている。 第3章では、リサーチ・デザイン、質的調査法、現象学的アプローチ、調査箇所、データ収集法、データ分析、研究倫理を含む本研究における方法論を述べている。 第4章では、インタビュー調査で得たデータをどのように分析したかを述べている。現象学的分析により、理由、合理化、効果という3つのエッセンスを抽出した。さらに、この3つのエッセンスは複数のサブエッセンスから構成されることが判明した。理由は、「取引での絶対成功」・「常識」・「共生」のサブエッセンス、合理化は、「単なる契約に過ぎない」・「だれにも害を及ぼさない」・「イスラム教のコーランによる合理化」・「似非宗教的賄賂」のサブエ			

ッセンス、効果は、「具体化」・「モラルへの影響」・「離職」・「経験からの教訓」のサブエッセンスから構成されることも解明した。

第5章では、前章における分析結果を踏まえ、その意味を解説している。具体的には、現象学的概念である「生活世界」・「普通」・「集合近眼」等がインドネシアにおける企業収賄の説明に対し、どのように変容していくかを論じた。さらに、ユダヤ・キリスト教を土台にした「解釈学」とインドネシアのイスラム教徒が実践するコーラン解釈の差異についても解説している。

第6章では、前章すべてを受け、新たな発見・知見を述べるとともに、本論文の限界ならびに将来の研究方向を示唆している。

3. 本論文に対する評価

企業贈収賄に関する本論文以前の研究では、西洋先進国における概念・理論が中心であり、行動科学・心理学・組織行動論等の学術的背景による説明が主流であった。ところが、非西洋先進国であるインドネシアにおける企業贈収賄の問題に対し、納得がいく説明ができていなかった。本論文においては、西洋先進国で形成・発展された概念・理論をそのまま適用し、計量的に説明するのではなく、現象学を土台にしたアプローチをとることにより、実際に企業贈収賄を経験したインドネシアの当事者の思考パターンを記述し、明確にすることが可能になった。さらに、当事者達が企業贈収賄行為を合理化する思考パターンにイスラム教が影響することを解明できたことは、世界的にも嚆矢と言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。